



ルシア塩満

パラグアイへのアルパ留学を経て、1975年にプロ・デビュー。以後、幾度かのアルパ留学を重ね、日本でのパラグアイ音楽と文化の普及の功績が認められて、パラグアイから1995年【文化功労賞】、2004年【国家功労勲章・コメンダドール位】の授与という栄誉を得る。海外では「コスキンフェスティバル」に5回出場。2007年、パラグアイでの「第1回世界アルパフェスティバル」にアジア代表として招待演奏。チリ、ボリビアでのコンサートのほか、2010年にはパラグアイで演奏活動35周年のコンサートを行い、ベネズエラでもコンサートを成功させる。2013年には念願だった自分のトリオを連れてパラグアイでコンサートを行い好評を博す。六代にわたるパラグアイ大統領御前演奏で文化交流の一翼を担う。



上松美香

13歳の頃からアルパを始める。その後、本格的にアルパに取り組み、15歳でパラグアイへ渡り現地でのフェスティバル出演や国内のコンクールへの出演で各賞を受賞し、実績を積み上げる。2000年にキングレコードからCDデビューし、全国展開する。2008年にはBSジャパンの番組のメインテーマを担当、東京フィルとの共演などを経て、パラグアイでの「第2回世界アルパフェスティバル」に招待出演。近頃は楽曲提供や多くのミュージシャンとのコラボレーションなど、活動の場を広めている。



今村夏海

6歳の時、チューチョ・デ・メヒコ氏のアルパ演奏を聴き、師のアカデミアに入門し、ラテン音楽の基礎を学ぶ。15歳でCDデビュー。2006年にはメキシカンアルパのアルベルト・デ・ラ・ロサ氏に師事し、2ndアルバムをメキシコで録音。録音メンバーと行った日本ツアーは大好評を得る。2011年、半年間のメキシコでのアルパ留学では、ラテン感覚を身体で吸収し、その成果を3rdアルバムで発表。2014年にはペラカルス州立大学などでコンサートを行うなど、日本とメキシコで活動する。



藤枝貴子

日本でのアルパコンクールで入賞したことを機にパラグアイへアルパ留学をする。約2年間の留学中にパピ・ガラン氏に師事し、パラグアイでは指折りのテクニシャンとして名高い恩師から、アルパ奏法を習得する。現地では恩師とともにコンサート活動、ラジオ番組へ多数出演するなどの経験を積み、CDを2枚制作。日本では日下部由美氏に師事。全国各地で演奏活動をする一方、東京都公認のヘブンアーティストとしても活動する。



牧野将典

パラグアイアルパの世界にとどまらず、自ら開拓したアルパを進化させながら、独自の世界観を情熱的かつ繊細な表現力で演奏するアルパ奏者。2011年、2012年の2度にわたり招待されたパラグアイの「世界アルパフェスティバル」では、その類稀な表現力によって観客を虜にする。近年では、ファッショショーンでの演奏、書家：武田双雲氏との共演、伊勢神宮での奉納演奏など、他のジャンルの芸術とのコラボレーションも多い。地元のFM局の音楽番組のパーソナリティーも担当。



マルティン・ポルティーリョ

12歳からアルパを始める。17歳のときにはオーストリアで活動するなど若くから才能を開花させる。1990年、アスンシオンで行われた「ローシャス・アルパフェスティバル」でプロ作曲部門の最優秀賞を獲得し、演奏家・作曲家としての地位を確立する。2000年の「春のアルペジオ」にゲスト出演し好評を得て、その後、幾度かの来日で日本との交流を深め、2006年の秋篠宮殿下のパラグアイ訪問の際の歓迎式典で演奏をする。現在は“ソニードス・デ・ラ・ティエラ”的音楽ディレクターとして若手奏者育成にも尽力する。

ミルタ・ノエミ・タラベラ

音楽一家に育った影響で、幼い頃から音楽に親しむ。1997年、「ウパカライ湖フェスティバル」において女性ソロ歌手部門で優勝したことを契機にプロ歌手としての道を歩む。パラグアイの主だったホールで多くのアーティストと共に演奏し実績を積む。2010年、2011年には東京、千葉などで来日公演を行う。これまでに6枚のアルバムを制作し、心地よい澄んだ歌声と特有の歌唱法が魅力で、パラグアイでは将来が期待される歌手のひとり。

パブロ・バリオス

7歳のときから父親に音楽を学ぶ。1987年にフェスティバルで優勝し、その後、兄とドゥオを組んで各地で音楽活動を開始。その数年後、ヨーロッパから帰国したマルティン・ポルティーリョとトリオを結成し、パラグアイおよびアルゼンチン、ブラジルの都市で演奏し好評を得る。1992年に初のヨーロッパ・ツアーワーで各国を演奏して回る。その後、世界各地のホテルや、世界一周豪華客船での演奏など、ワールドワイドな活動を続ける。



増永雅子

日本でのアルパコンクールで各賞を受賞したことを契機に、メキシコ、パラグアイへアルパ留学する。その後、2003年、2006年にCDを発表し、女性らしい優しさも兼ね備えたサウンドが評判を呼ぶ。演奏活動は日本だけではなく、ブラジル、メキシコ、チリでの招待演奏など、南米各地でも活躍する。地元、関西を中心にテレビ出演も多く、録音したCDから楽曲がテレビ番組に使われることも多い。現在の活動はコンサートのほか、ラジオ番組のDJを担当するなど多岐にわたる。



吉澤陽子

日本はもとよりベネズエラでも珍しい女性ベネズエラハープ奏者として活躍。1997年にベネズエラに渡り、アンデス圏のメリダ、ギアナ高地のカナイマ国立公園、ジャノ地方のアーベーレ、首都カラカスと音楽を求めて渡り歩き、5年間のベネズエラ音楽修業を経て2002年に帰国。2007年、ベネズエラのアーティストたちと本格的な日本向けユニット「Ahonda」を結成し、5回の日本ツアーを行う。未開のベネズエラ音楽を新しいラテン音楽『ムシカ・ベネソーラーナ』として日本に浸透させる活動を続ける。



アルパデュオ ソンリーサ 松木ありさ & エンリケ・カレーラ

松木ありさが2005年にパラグアイへアルパ留学したことでエンリケ・カレーラと知り合い、2006年に結成される。アルパ2台でアンサンブルを聴かせるアルパデュオということが好評を得て、2007年より行われるアジア最大の旅行博「ツーリズム expo ジャパン」で演奏し、パラグアイ観光の宣伝に一役買う。2008年にパラグアイで開催された「世界アルパフェスティバル」にアジア代表として演奏。パラグアイ大統領の来日歓迎レセプションでも演奏。